

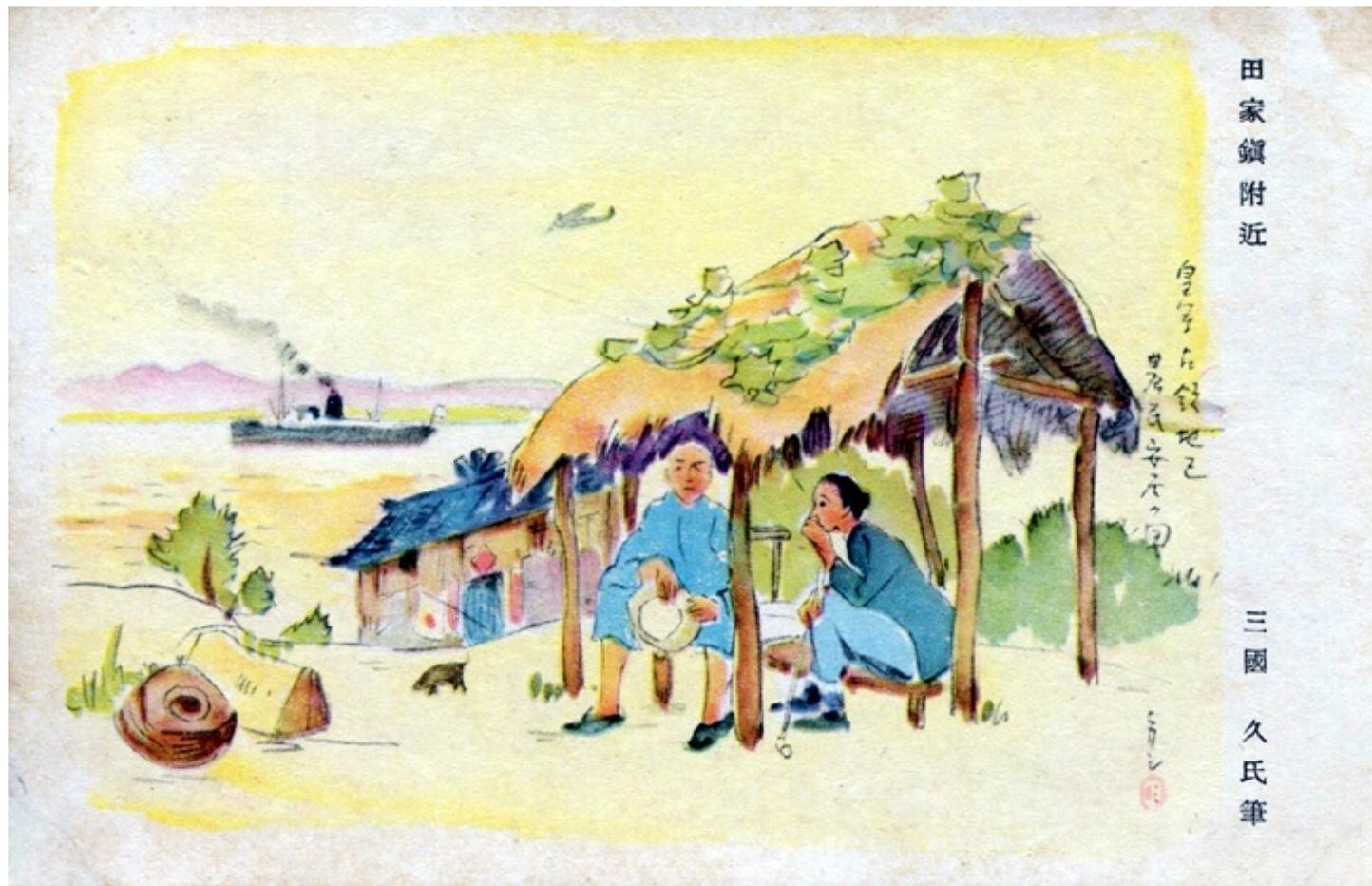
垂 庫

瘦 事

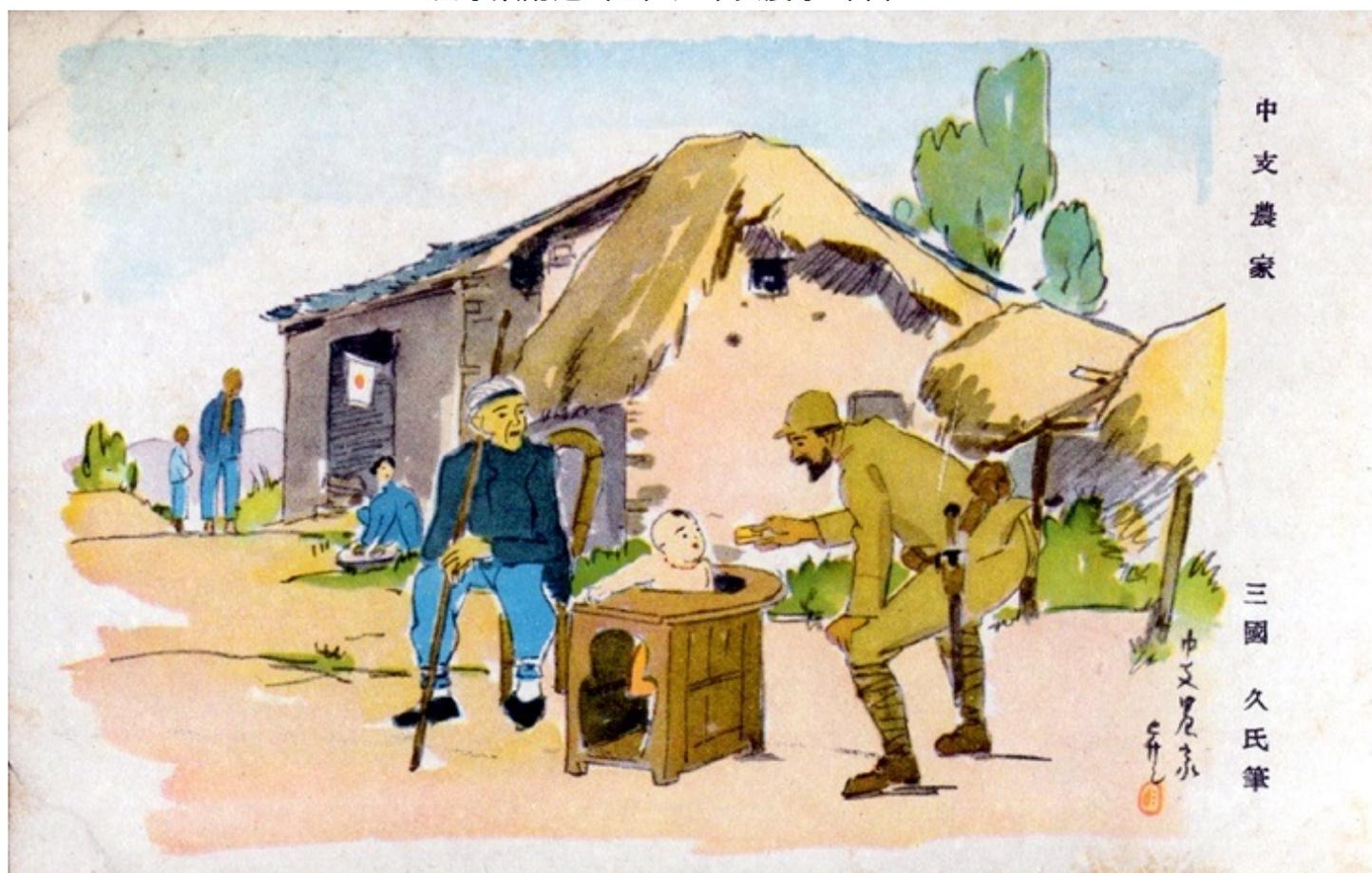


1.田家鎮附近／2.中支農家

三國久 画伯



.田家鎮附近（上）／中支農家（下）



3.中支所見 良民とクリーク／4.漢口所見



中支所見 良民とクリーク

三國 久氏筆

中支所見 良民とクリーク（上）／漢口所見（下）



漢口所見

三國 久氏筆

5.南京所見／三國久画伯略歴



南京所見

三國久（みくにひさし）

【生没】1885～1966

大正から昭和にかけての画家。

明治18年12月20日、佐渡相川町に三國豊吉・ゲンの長男として生まれた。

明治37年佐渡中学校在学中選ばれて、新潟市に行啓中の皇太子殿下（大正天皇）の御前揮毫をする。

明治45年、父豊吉が入学時から反対していた東京美術学校（現芸術大学）を卒業。

大正3年の大正博覧会美術展に入賞、以後昭和初期にかけて帝展入選三回。

昭和4年青山熊治・栗原忠二らと共に第一美術を創立、同人となる。

昭和11年海軍従軍画家として上海・南京方面に従軍し、石井柏亭・石川寅治とともに海軍館の壁画を描き、当時の作品は現在も保存されている。

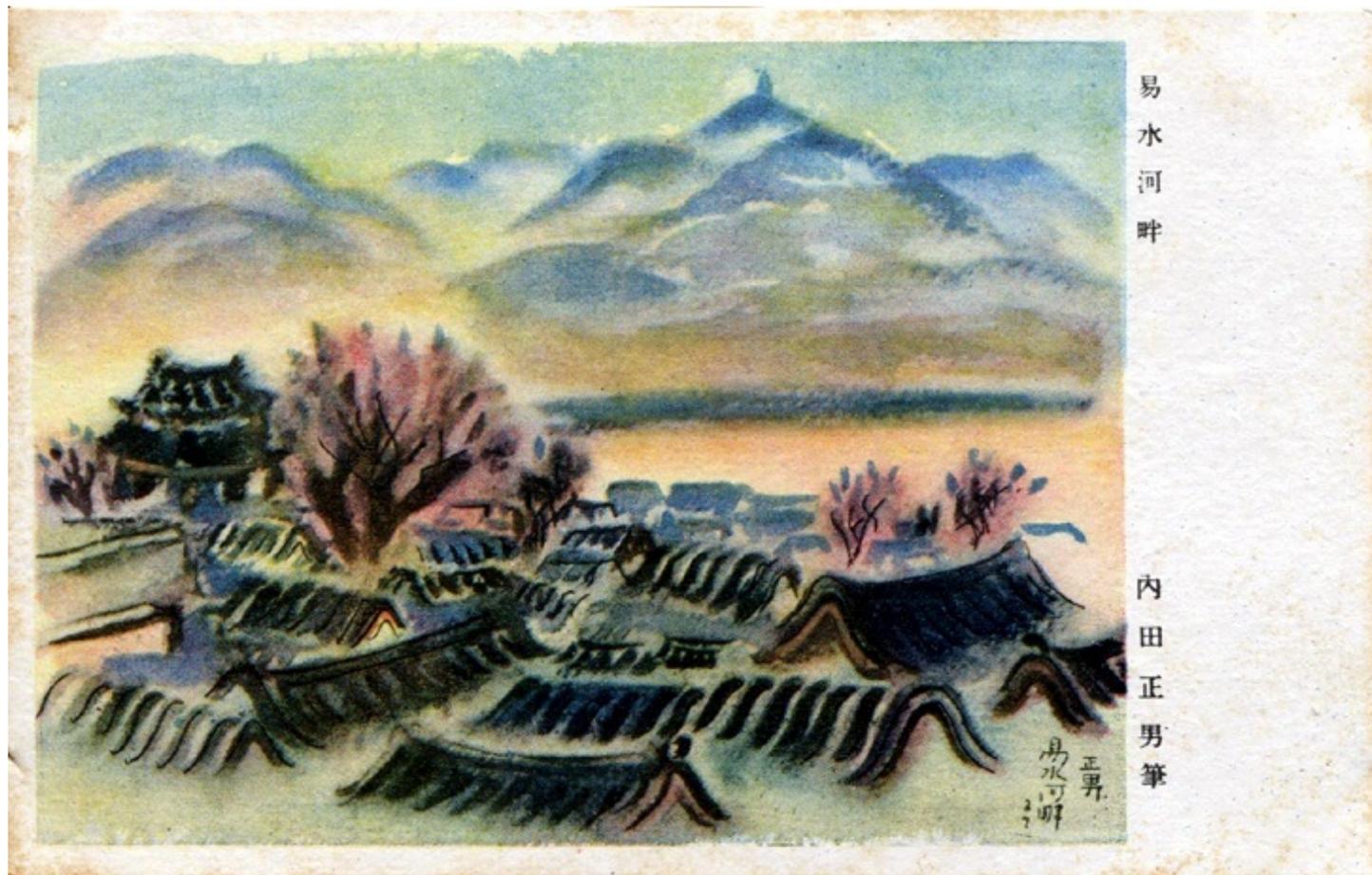
昭和20年戦災に会い、郷里相川に帰り画筆に親しむ。

昭和21年、近松行雄・本間勝太郎らと共に狭門会を創立、同人となる。同年より41年4月まで、相川高校・相川中学校・河原田中学校の美術講師をつとめる。

昭和37年4月、日本美術家祭にあたり、画壇の功績者として表彰される。

昭和41年5月18日逝去、享年82歳。

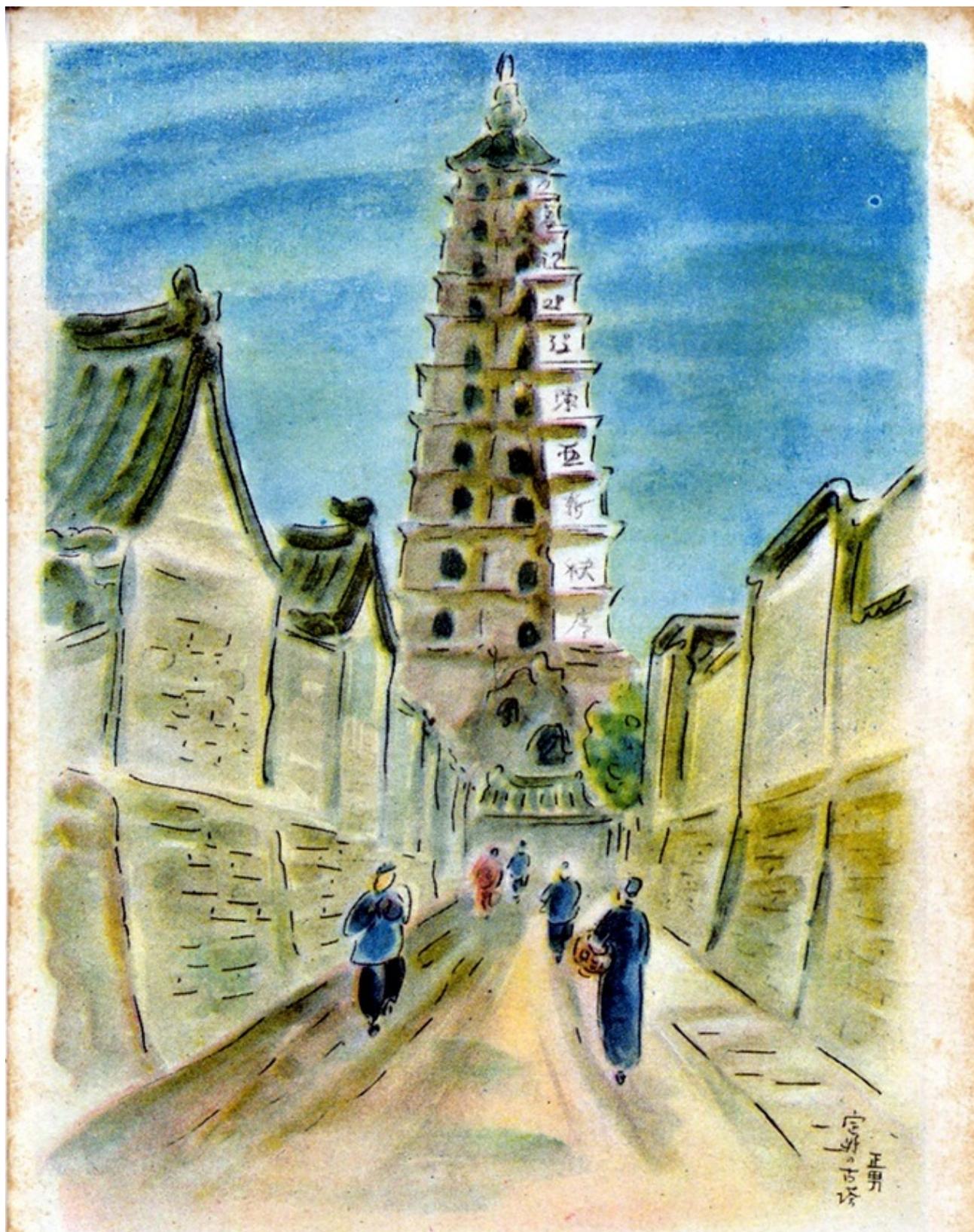
内田正男画伯



内田正男

1921年、小田原生まれ。

1941年、東京天文台勤務。東大講師。



筆男正田内

塔古の縣定

1. 姑蘇雨情 / 2. 汕頭

向井潤吉画伯



姑蘇雨情

向井潤吉氏筆

姑蘇雨情（上） / 汕頭（下）



汕頭

小早川篤四郎氏筆

3.朝陽門内／4.南船



朝陽門内

向井潤吉氏筆

朝陽門内（上）／南船（下）



南
船

向井潤吉氏筆

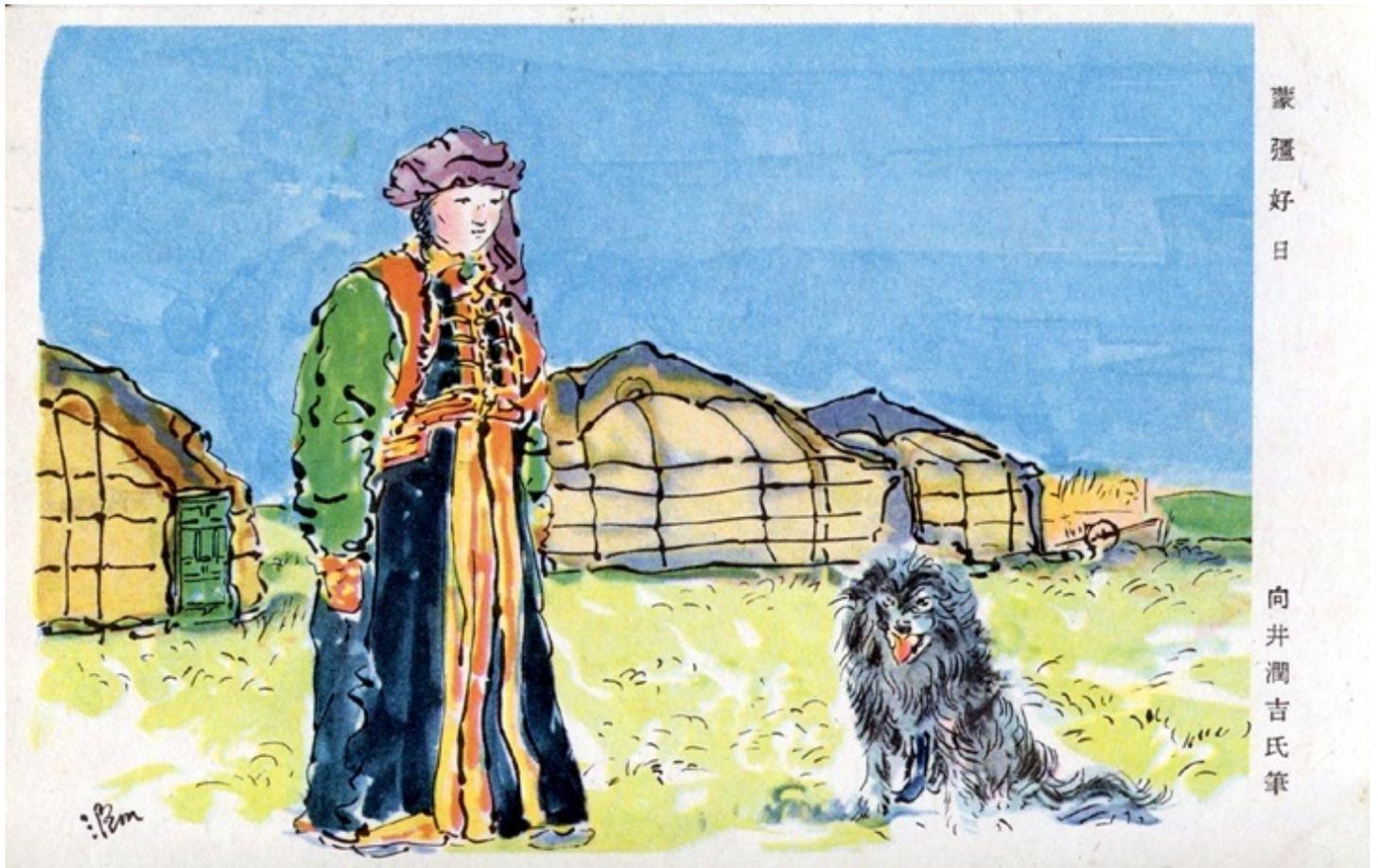
5.北滿待春



向井潤吉氏筆

北滿待春

6.蒙疆好日／向井潤吉画伯略歴



蒙
疆
好
日

向
井
潤
吉
氏
筆

向井潤吉画伯略歴

1901年（明治34年）11月30日 - 1995年（平成7年）11月14日

日本の洋画家。戦前から戦後にかけて活躍、40年以上に渡り北海道から鹿児島までを旅し、生涯古い民家の絵を描き続け「民家の向井」と呼ばれた洋画家であった。

京都市下京区仏光寺通に父才吉と母津禰の長男生まれる。父はもともと宮大工の家柄で東本願寺の建築にも関わった。潤吉が物心ついた頃には、家で10人近い職人を雇い輸出向けの刺繍屏風や衝立を製造していた。

1914年（大正3年）4月、13歳の時、父と日本画を学ぶことを約して京都市立美術工芸学校予科に入学するが、2年後どうしても油絵が描きたくて父の反対を押し切って中退、家業を手伝いながらという条件で関西美術院に入り、4年間学ぶ。

1919年（大正8年）二科会第6回展に初入選。翌年家に無断で上京、半年ほど新聞配達で働きながら川端画学校に通うが、年内には再び京都に戻る。

1927年（昭和2年）、当時最も安い経路だったシベリア鉄道を使いフランスへ向かう。滞仏中は、午前中はルーブル美術館で模写、午後は自由制作、夜はアカデミー・ド・ラ・ショーミエールで素描をおこなうのが日課であった。向井は後年「私の如き貧乏の画学生には、費用のかからないそして自由に名画に接し得られる美術館での勉強はまことに有り難かった」と述懐している。模写した作品はヴェネツィア派からバロック絵画にかけての作品が目につく他、コロアの作品が多い。その一方で、スーティンやココシュカを想起させる荒々しい筆触の作品も描いており、フォーヴィスムへの接近を色濃く感じさせる。

3年後の1930年（昭和5年）に帰国し、模写の展覧会を開く。同年結婚、また、二科会に渡欧中に制作したフォーヴィスム調の作品11点を出品、樗牛賞を受ける。

1933年（昭和8年）東京都世田谷区弦巻に転居し、以後没年まで居住する。

1937年（昭和12年）個人の資格で中国の天津、北京、大同方面に従軍、1938年（昭和13年）大日本陸軍従軍画家協会が設立されると、潤吉も会員となり戦争画を描く。

終戦後の1945年（昭和20年）秋、新潟県の川口村で取材した作品「雨」（個人蔵）を制作、以後生涯の主題として草屋根の民家を描き続ける。しかし、初期の頃は労働や生活の現場を画面に取り込んだ作風を見せ、いかにも向井らしい民家作品としての作風が確立するのは昭和30年代に入ってからのようなのだ。

1993年（平成5年）5月世田谷区に自宅を兼ねたアトリエとその土地、ならびに所蔵の作品を寄贈、同年7月世田谷美術館の分館として向井潤吉アトリエ館が開館する。

1995年（平成7年）急性肺炎のため自宅で逝去。93歳没。

1.部隊の農園／2.泊地

小早川篤四郎画伯



部隊の農園

小早川篤四郎氏筆

部隊の農園（上）／泊地（下）



泊地

小早川篤四郎氏筆

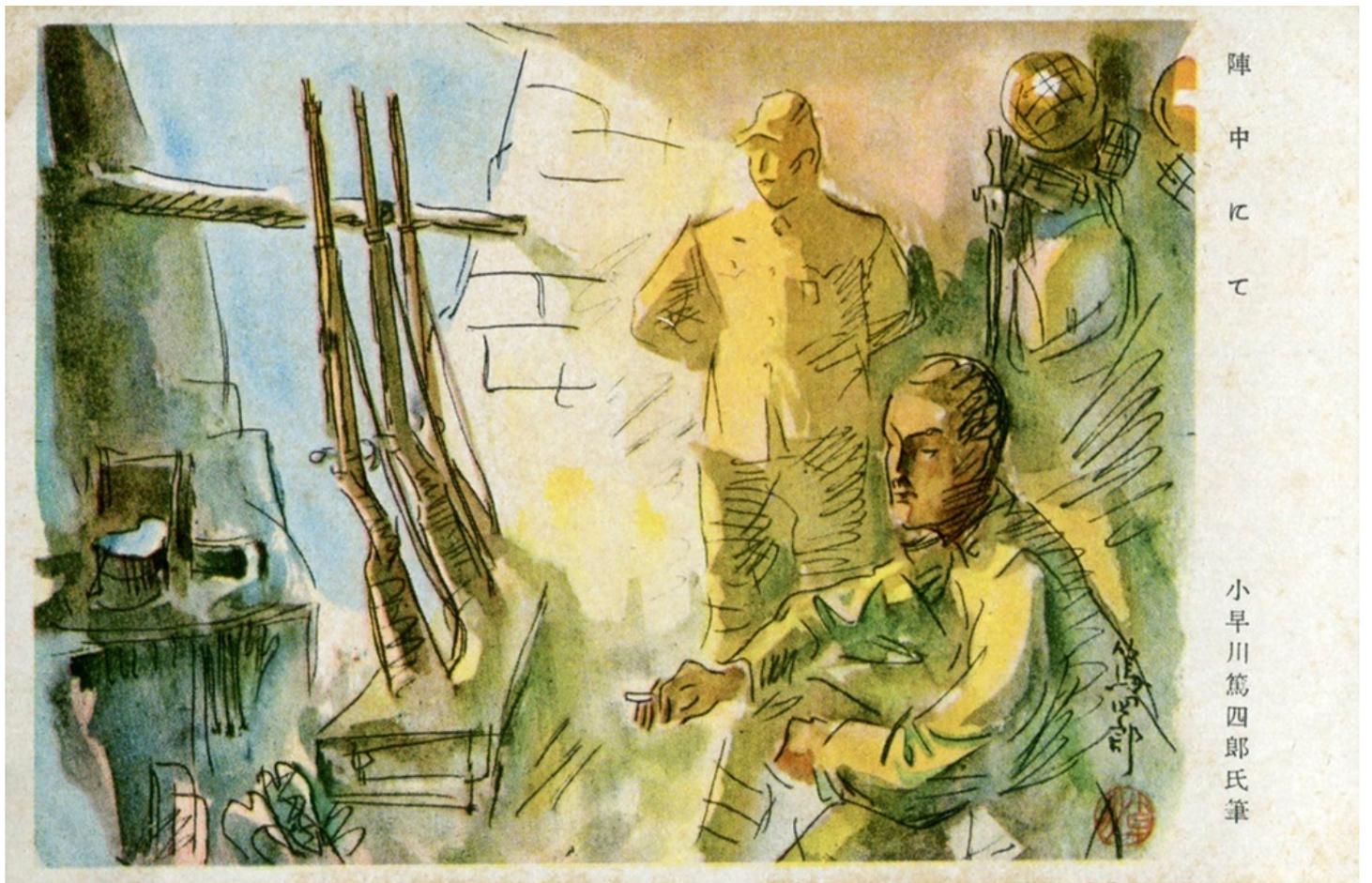


敵前上陸地（上）／仲よくお洗濯（下）





前線にて (上) / 陣中にて (下)





上海 (上) / 珠江 (下)



珠江

小早川篤四郎氏筆



海
口

小早川篤四郎氏筆

小早川篤四郎（こばやかわ あつしろう）

明治23（1893）-昭和34（1959）

洋画家。広島県広島市で生まれる。台湾で育つ。台湾で石川欽次郎に学ぶ。岡田三郎助に師事。大正14年（1925）、帝展初入選。昭和2年（1927）より昭和9年まで8回連続で入選。昭和12年、新文展無鑑査。槐樹社に参加して昭和6年に槐樹社会友となるが同年解散。昭和7年、東光会設立に参加して会友。昭和10年、同会会員。のち委員。昭和34年（1959）、日展会員。

代表作は「ジャワ婦人」（大正14（1925） 第6回帝展）、「蘇州河南岸」（昭和14（1939） 第3回新文展）などがある。

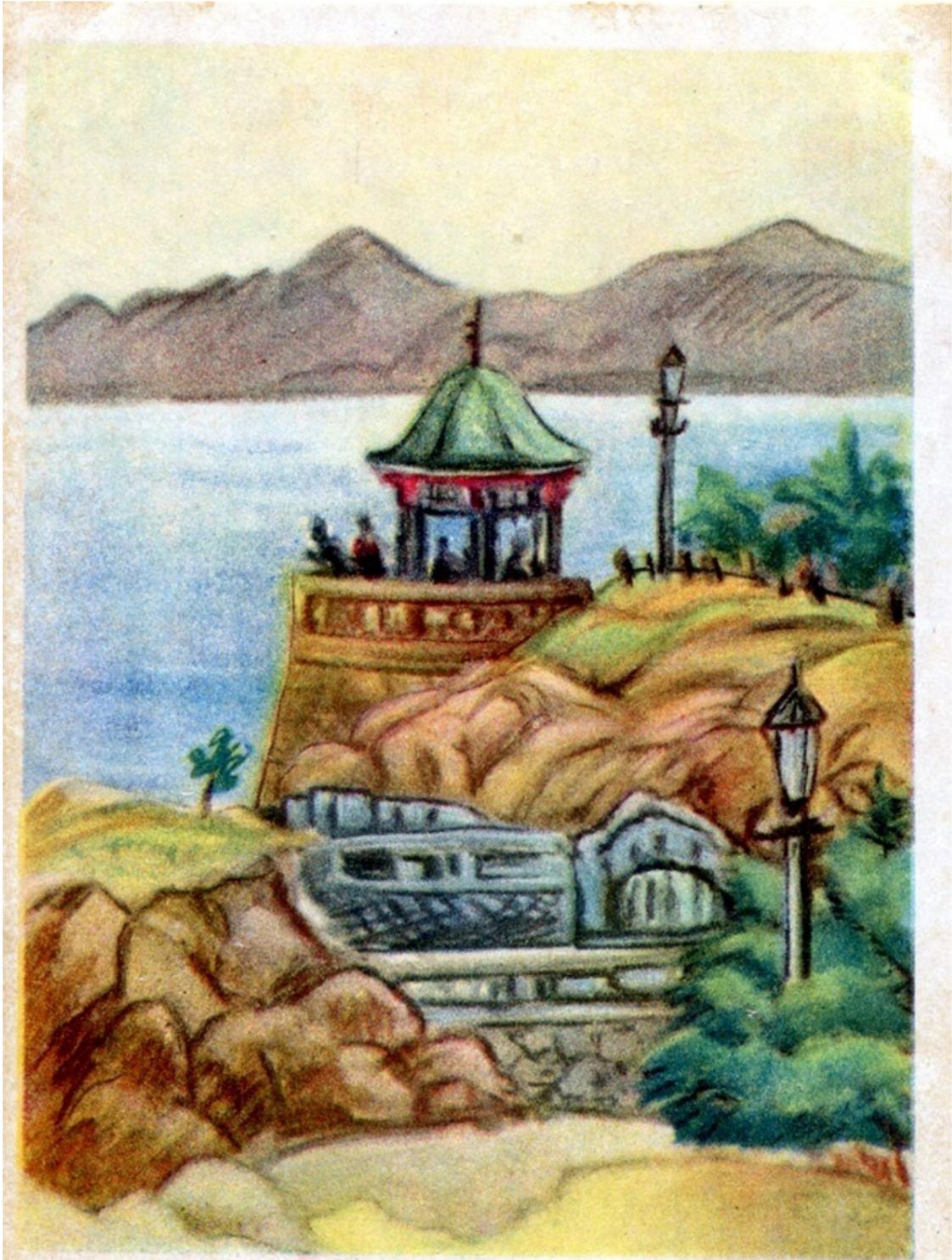
◇戦争画との関連

昭和12年、海軍従軍画家として上海に赴いている。

戦争美術関係の展覧会では、昭和18年の国民総力決戦美術展、昭和19年の陸軍美術展（第2回）に出品しており、昭和14年の第1回聖戦美術展、昭和16年の第2回聖戦美術展、昭和18年の第2回大東亜戦争美術展に出品している。また、昭和13年の第2回海洋美術展、昭和14年の第3回海洋美術展、昭和16年の第5回海洋美術展、昭和18年の第7回海洋美術展に出品している。昭和19年の戦時特別文展での陸軍省海軍省特別出品にも加わっている。

青島海岸風景

市岡正美画伯（不明）



筆美正岡市

（二其）景風岸海島青